

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2021.12)令和3年度:

文献検討

についての

, ,

妊娠期の妻を持つ夫の喫煙の実状についての文献検討

太田翔子 廣田桃果 森安舞歩

(指導：阿部修子)

緒言

日本産婦人科学会(2020)によると、受動喫煙は胎児の発育を障害し、乳児突然死症候群をはじめとするさまざまな小児疾患を増加させることがわかっている。東田(2014)は、妊娠初期54.7%、中期54.3%、末期56.5%の妊婦が受動喫煙を受けており、原因喫煙者は夫が最も多いと報告している。また、御手洗(2009)は、妻が出産後に再喫煙した理由は「夫が吸っているのを見て」と述べている。そのため、妊婦だけではなく、妊娠期の妻を持つ夫の禁煙も重要であるが、夫を対象とした研究は少ない。

本研究では、先行研究を分析し、妊娠期の妻を持つ夫の喫煙の実状を明らかにすることを目的とした。

方法

研究対象：医学中央雑誌 Web を使用し、日本語の原著論文、会議録除く、2001～2021年4月を絞り込み条件として、研究目的に沿った文献を抽出した。キーワード「妊婦」「喫煙」「喫煙状況」では30件がヒットし、うち7件、「妊娠」「受動喫煙」「夫」では33件がヒットし、うち7件を抽出した。2文献が重複しており、計12件を研究対象文献とした。

データ分析方法：研究対象の文献のタイトル、著者名、書誌事項、研究対象、研究内容を要約した。文献を熟読し、妊娠期の妻を持つ夫の喫煙率や喫煙行動、喫煙に関する知識や指導について抽出し、研究者間で確認して整理した。知識については妊娠期の夫を対象とした論文が見つからなかったため、出産後の夫を対象とした論文で検討を行った。

倫理的配慮：本研究は先行研究に基づく研究であり、論文を引用・参考した文献の出典を明示する。使用する文献は著作権の範囲内で使用する。

結果

使用した対象文献は、表1にまとめ、結果の出典は表1の文献番号を上付きで示した。

1. 妊婦と妊娠期の妻を持つ夫の喫煙率と妊婦の受動喫煙率について

妊婦の喫煙率については5文献^{1) 7) 8) 11) 12)}あり、2019年のデータでは5.0%¹²⁾であった。妊娠期の妻を持つ夫(以下、夫とする)の喫煙率については4文献^{1) 8) 10) 12)}あり、41.3%¹²⁾～59.7%⁸⁾であった。妊婦の受動喫煙率については2文献^{7) 12)}であり、2019年のデータでは46.2%¹²⁾であった。妊婦の周囲の喫煙者は78.2%～86.2%¹⁾が夫であった。

2. 妊娠期の妻を持つ夫の行動変容について

妻の妊娠を契機に禁煙している夫については2文献^{4) 11)}あり、夫の禁煙率は1.3%¹¹⁾～12.7

%⁴⁾であった。夫の喫煙に関する行動変容では、空気清浄機・換気扇の下で吸う、屋外又はベランダ、車の中、家では吸わない、タール量を減らす^{1) 3) 4) 7) 8) 10) 12)}などがあつた。

3. 夫の喫煙に関する知識について

分煙の知識の有無、妊婦・胎児への悪影響については、分煙によっても受動喫煙となることを知っている40.9%、知らない59.1%であった¹⁰⁾。妊婦の受動喫煙による悪影響に関する知識は、低出生体重児28%、障害児27%、乳児突然死症候群4%であった¹⁰⁾。「妊娠中、喫煙が胎児や母体に与える影響に関する情報を得る機会」の問いに対し、8割の夫があつた⁴⁾と回答した。夫の喫煙の害に関する情報源には、テレビが36%、病院・妻がそれぞれ13%であった¹⁰⁾。また、夫の妊婦健診への同席は25%、市町村の両親教室への参加は34%であった¹⁰⁾。

4. 禁煙指導について

本人及びパートナー両方の喫煙状況について聴取している施設は45.6%⁵⁾であり、妊婦健診時に禁煙指導を実施している施設は、59.4%⁹⁾であった。指導内容は妊婦の禁煙100%、妊婦の減煙67.7%、夫の禁煙41.9%、夫の分煙51.6%⁶⁾、胎児への有害性に関する説明66.9%、受動喫煙の影響に関する説明60.7%⁹⁾であった。

指導方法は診察時の口頭指導、個別面接、集団指導、パンフレット配布⁶⁾、禁煙カード^{2) 3)}があつた。

考察

1. 妊婦の受動喫煙と妊娠期の妻を持つ夫の行動変容について

妊婦の喫煙率と妊婦の受動喫煙率から、半数の妊婦がタバコによる影響を受けている。中でも、受動喫煙の原因喫煙者は夫が多い。さらに厚生労働省(2019)の報告では、成人男性の喫煙率は27.1%であり、本研究での夫の喫煙率は一般男性と比較しても高い。

松村ら(2009)によると、妊娠を機に禁煙した妊婦は67.7%であり、妻の妊娠を契機に禁煙している夫と比較すると、夫の禁煙率は低い。とはいえ、妊娠を機に行動変容している夫がいることから、夫は妊婦や胎児に対して受動喫煙への配慮をしていると考えられる。しかし、瀧瀬ら(2012)によると、換気扇下、ベランダ、屋外いずれの場所においても、家人(非喫煙者)が日常過ごす居室に煙が拡散・浸入し、受動喫煙を防止できないことは明らかになっている。

以上のことから、夫は妻の妊娠を機に喫煙に対する行動変容をしているものの、夫の喫煙率は高く、妻へ受動喫煙の影響を与えている。そのため、夫の喫煙率を下げるための介入が必要

であると考える。

2. 夫の喫煙に関する知識について

分煙では受動喫煙を防止できないが、夫の過半数はこの事実を知らなかった。また、受動喫煙による悪影響について知っている夫は3割以下であった。さらに、中村(2018)は、乳児突然死症候群は受動喫煙との関連が確実であると示唆しているが、乳児突然死症候群についての知識普及率は低かった。そのため、夫に対する受動喫煙や禁煙に関する知識の普及が必要であると考える。

出産後の夫の8割は、喫煙についての情報を得ていたが、妊婦健診などへの同席率は低く、医療従事者から直接知識を得る機会は少なかった。夫が喫煙に関する知識を得られる場への参加を促進することが必要である。

3. 禁煙指導について

妊婦や妊婦の夫の喫煙状況を把握している施設は半数以下であり、夫を対象とした指導は十分に行われていない。今後も夫への指導については、効果的な指導方法や指導内容などを検討していく必要があると考える。

引用文献

東田有加, 大橋一友 (2013) : 妊婦の高濃度受動

喫煙の実態と原因喫煙者の分析, 54 (3), 188, 母性衛生.

瀧瀬朋弥, 石原多佳子, 玉置真理子, 他 (2012) : 家庭における受動喫煙曝露状況に関する調査 受動喫煙をゼロにする対策を考える (原著論文), 68 (6), 518-523, 保健師ジャーナル.

厚生労働省 (2020) : 厚生労働省の最新たばこ情報, <http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd100000.html> (2019.9.16)

松村貴代, 谷口千穂, 濱頭直子 (2009) : 京都市における妊婦の喫煙・飲酒の状況について (原著論文), 56 (9), 655-661, 日本公衆衛生雑誌.

御手洗幸子, 久保幸代 (2009) : 当院における、妊娠中からの出産後における妊婦と夫 (パートナー) の喫煙状況 出生後1ヶ月健診のアンケート調査から, 22 (3), 451, 日本助産師学会誌.

中村正和 (2018) : 受動喫煙 - 他人の喫煙の影響, <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/tobacco/t-02-005.html> (2021.9.17)

日本産婦人科学会, 日本産婦人科医会編 (2020) : 産婦人科診療ガイドライン, 119, 日本産婦人科学会事務局.

表1 対象文献

文献番号	タイトル	著者	出典	研究対象
1	地域における妊婦および1歳6ヵ月児の両親の喫煙状況実態調査結果について	池田政憲, 橋高英之, 木村真人, 他	小児保健研究, 68 (4), 482-488, 2009	妊婦及び1歳6ヶ月児の父親・母親合計 3215名
2	喫煙している妊婦と喫煙している夫に禁煙カードを使用した効果	勝俣由喜子, 小林真由美, 濱野奈苗, 他	日本看護学会論文集: 母性看護, (43), 26-29, 2013	喫煙者 30名 (妊婦3名, 夫27名)、受動喫煙妊婦 26名の計 56名
3	妊婦とその夫への禁煙指導の効果 禁煙カードを使用して	小林真由美, 勝俣由喜子, 濱野奈苗, 他	済生会下関総合病院内看護研究集録, 46-50, 2011	妊娠初期から妊娠31週までの受動喫煙の妊婦とその夫 52名、喫煙している妊婦2名、夫婦共喫煙者1組
4	妊娠判明後のパートナーの喫煙行動の変化と関連要因	瀧瀬朋弥, 後閑容子, 石原多佳子, 他	日本公衆衛生雑誌, 60 (4), 212-221, 2013	4ヶ月健診対象となる児 1198人の父母 (A市776人, B市422人)
5	全国周産期施設における禁煙支援実態調査報告	大畑尚子, 鈴木史明, 中川常郎	日本周産期・新生児医学学会雑誌, 50(4), 1267-1270, 2015	日本周産期・新生児医学会周産期(母体・胎児)専門医研修認定施設 330施設
6	調査報告 山口県の妊婦におけるタバコの害に関する知識と産婦人科診療施設における禁煙の取り組み	佐世正勝, 藤野俊夫, 小林聖子, 他	周産期医学, 45 (8), 1153-1157, 2015	山口県産婦人科医会会員のうち分娩を取り扱っている37施設
7	妊婦の口腔、喫煙、受動喫煙の状況とその意識に関する研究	佐藤恵子, 稲垣幸司, 長谷川純代, 他	日本歯科衛生学会雑誌, 6 (1), 43-53, 2011	分娩に訪れた妊婦 1168名、妊娠16~24週の安産教室に参加した妊婦 752名
8	当院喫煙妊婦の実態調査 喫煙妊婦の禁煙指導にむけて	島瑞穂, 永井由美子, 小泉由貴美, 他	札幌社会保険総合病院医誌, 14 (1), 24-27, 2005	産婦人科受診中の妊婦 88名
9	産科医療機関における妊婦健診時の禁煙指導に関する実態調査-禁煙指導内容と喫煙状況の検討	田中奈美, 小林敏	母性衛生, 48 (4), 421-427, 2008	妊婦健診を提供している産科医療機関 800施設(病院500、診療所200、助産所100施設)
10	出産後の妻をもつ夫の喫煙状況・知識の実態調査	寺元美樹, 高橋あゆみ, 車谷央子, 他	日本看護学会論文集: 母性看護, (39), 102-104, 2009	産褥1日目以降の褥婦の夫(①妊娠36週以降、②児がNICU入室しない条件を満たした者)46名
11	妊婦の喫煙の関連要因 母親学級参加者のアンケート調査より	豊島泰子, 鷺尾昌一, 今村桃子, 他	日本循環器病予防学会誌, 47 (1), 37-42, 2012	母親学級に参加した妊婦 155名
12	妊婦や同居家族の喫煙状況、喫煙に対する意識の評価と禁煙啓発講義前後の変化について	山下健, 鹿庭寛子, 中村春樹, 他	日本禁煙学会雑誌, 14 (1), 4-11, 2019	妊婦健診を行った妊婦 627名